

学术对文学区



支 部 定 期 総 会 (九重/イランドホテルにて) (4月19日(土))

鶴見岳」と宣伝するのは理にかなっているわけ。そして、 だから、これを海抜ほぼOmの気温とすると、標高一OOOmだと につき〇.六五度といわれる。大分市の年間平均気温は一五.七度加えて、高度にともなって気温が下がる。気温の低下は一〇〇m 山に匹敵する一八〇〇mで三・三度となり、 鶴見岳の標高は一三七五m。だからロープウエーが「一〇度涼しい で三〇〇mの高さをかせぐのが平均であり、それでさえ息を切らすると、一時間に四㎞は平気なのだが、登るとなるとだいたい一時間 当がつきかねることが多く、実際より高く思える。そして歩くとな いのだが、それが高度となると、ちょっとしたビルの高さでさえ見 ろ平地で暮らしている。したがって水平距離だと感覚的につかみ易 しよう。 ことになる。 まず、 五度と計算できる。そして一四〇〇mになると五 山は高く見えるという当たり前の話である。私たちは日ご 二三〇〇mでおよそ〇 九度である。 ほぼ久住

出高きが故い

支部長 梅木秀徳

《 もくじ 》	ĺ,
山高きが故に	1
黒岳	2
二ツ岳	3
地蔵岳	3
山行報告(高隈山系)	4
内山へ練習登山	4
私の無名山ガイドブック(3)	5
15年度支部定例総会	5
お知らせ	6
ご連絡	6
後記	6

前段の対句

本題に入ることにしている。そこで、今回はその「話の枕」を紹介などを依頼された際には、まず高度について語り、その後に登山の高さを求めてこそ登山家なのである。だから最近、山に関する講演

低山趣味の岳人が自己弁護?に使ったりしたものである。

山登りが好きな者なら、山の高さは大切なものであり、

しかし、

ところに登りたがる」と登山人を小ばかにした用語に利用されたり、

「山高きが故に貴からず」だけが人口に膾炙して「バカと煙は高

見かけより中身が大切だとの教えになるのだが、

故不貴」という語句がある。本来はこの後に「以有樹為貴」

かって寺子屋などで教科書として使われた『実語教』に

度である。

百mは、水平距離数百㎞に当た 除けば、北海道の気温を体験し 岳より高い場所に当たると考え ると言い換えてもよい。 ている勘定なのである。高度数 ことによって、その他の条件を や旭川は六・四ど度あり、鶴見 ちょうど標高一〇〇〇m、稚内 相当する。函館市の八・五度は それぞれ二〇〇m、四〇〇mに る。これを標高に置き換えると 度で、福島市が一二・六度であ なる。 てよい。私たちは鶴見岳に登る みると同じく甲府市が一三・九 五・七度といったが、調べて また気温は北に行くほど低く

れば空気が薄くなるし、酸素は ってくる。 〇〇mなのだ。沸点もまた下が こす。人間の生活限界は約五〇 減る。これが高度障害を引き起 の一まで下がる。気圧が低くな 圧となるし、六〇〇〇mで三分 ると、久住山あたりで〇.八気 ている。海抜〇mを一気圧とす はない。高度は気圧とも関係し を意味する。だが、これだけで 理解できよう。と言うことは、 というものが曲者であることが 登山が寒気との闘いであること この気温だけの例でも、高さ

の生活の厳しさが理解できると の激しさなどなど、山とその高 さは一筋縄ではない。山間地帯 加えて風雨の強さ。積雪の多 雲や霧の発生。気象の変化

> は文化まで左右するのである。 因する。いや、ただそれだけで そこに暮らす人々の生活、果て はない。山とその高さは自然と ともに、登山の苦労はこれに起 仮に地球の大きさをピンポン

まで規制しているのが分かる。 変え、食生活を変え、ひいては 気候を大きく分けているのを見 帯となる。「世界の屋根」だか それが障壁となって南は森林や ても、山々が人間の生産様式を 々が、日本海型気候と太平洋型 も、日本列島の背骨に当たる山 ヒマラヤほど高く大きくなくて らこそ、との言い方もあろうが は砂漠と草原の卓越する乾燥地 渓谷の多い湿潤地帯となり、北 の生活、文化を大きく変える。 脈は南と北の自然の様相と人間 とがあるが、例えばヒマラヤ山 われるし、だから山脈などたい はピンポン球より滑らかだと言 球の大きさにすると、その表面 社会の仕組みや考え方から宗教 したものではないと語られるこ

がれ、登り続けたい。 意を表したい。高さを謙虚に受 として、まずは山々の高さに敬 け入れたい。そして高みにあこ 大変なことなのである。登山人 れない。だが、山の高さは実は 面の真理を語っているかも知 「山高きが故に貴からず」は

> 一月月例山行報告 五七八旦

信 江

はだしになって渡って行かれま うと迷っていると、安部先生が 増えているようです。どうしよ 源流部です。前日の雨で水量が れが見えてきました。大野川の らはずして助けてあげました。 田さんたちが行って、ネットか 苦しがっていました。すぐに飯 るためのネット)に首を絡めて の中に鹿が侵入するのを防止す 子鹿が防御用のネット(造林地 分行ったところの道の近くで、 の案内板が道端にあります。数 高千穂山のが作った黒岳登山口 回の山行は手持ちの本を読むと、 う一つ黒岳があるようです。今 をめざしました。宮崎県にはも 現を引用しました。)三台に分 時半サニー集合。飯田車、安部 道が急なようで少し不安でした。 乗。竹田から祖母山北谷登山口 車、佐藤車(安藤セツさんの表 トルほど引き返したところに、 気分良く歩いていたら川の流 北谷登山口七時到着。百メー 二月二十三日 (日曜) 午前四

終えました。少し行くと、もう るのは初めての経験でした。 度川を渡ります。雨具のズボ 七時四十五分に十一人が渡り

した。山歩きで川をはだしで渡

こんでも、靴の中に水が入らず つけていると水の中に足をつっ に助かりました。 ンをはいているか、スパッツを

に着きました。一五七八m四等

はないようです。 程で、右手に分かれる支流の谷 くようになりました。行程の中 が残っていて、つららも目につ テープがついていて、迷うこと を登るようになりました。赤い 川に沿って登っていくと、雪

ケや木の枝や岩などにつかまり は凍っていて危険です。スズタ 残雪も深くなってきて、雪の下 ながら慎重に登りました。 谷は次第に急に険しくなり、



越して、十一時五分に黒岳頂上 を左側に回り込むと稜線に出ま した。右に小ピークを一つ登り 正面に大きな岩があり、それ (黒岳山頂にて)

高千穂側に下ることとなりまし 北谷に戻り、車を廻すこととな を予定していたが、雪と氷で登 岳〜祖母山〜北谷と一周コース た。(コースコンディションが り、あと全員で隣の親父山から せんでしたが、曇り空のもと、 三角点です。幸いに雨は降りま よければ黒岳から親父山~障子 石川さん、佐藤さんは黒岳から 十一時四十分出発です。ここで 周りはガスで何も見えません。 『三尖』への案内板がありまし 食事をして、記念写真を撮り

栂という木だそうです。 飯田さんに木の名前を聞いたら 白い霧の中に影絵のようにうか 十五分出発。下りは快適な道で をして、写真を撮り、十二時五 です。西さんの音頭でバンザイ した。一六四四m、三等三角点 十二時四十分に親父山に着きま っていて、地面は凍っているた んで立っていてきれいでした。 した。形が松に似た高い木が、 め早く歩けません。気温七度。 はずですが、雪が数センチ積も 親父山までの道は歩きやすい

季見原キャンプ場への、道の分 十分ほど歩いて親父山林道と四 二時五分に林道に出て、さらに と、川を四、五回渡り越ました。 下りの傾斜が次第に緩くなる

岐点にだました。振り返ると、 てきれいな風景でした。 三尖の峰と栂の木とを見わたせ

そうです。佐藤車は高千穂温泉 七割ぐらいは後ろ向きで下った 迎えに来た車と出会いました。 歩いて下っていると、北谷から おだやかな曲線を描いておりま そこで車三台は流れ解散です。 した。大分には夕方六時頃帰り に寄りました。高千穂の山々は あとで佐藤さんに聞いたら、 それから舗装した林道を少し

渡部 広瀬、 牧野、 八

ので、 ほぼ一年近く参加できなかった わたしは安部先生の車に乗り込 合流。飯田号と安部号の二台。 高校」で大分からのメンバーと 三十分に起き、六時「三重農業 三月二十三日 (日曜) 、朝四時 山(院内町)」に参加して以来、 昨年の五月の月例山行の「石 今回は楽しみにしていた。

参加者=阿部、 安部、 飯田、 石

五五七 五世

三月月例山行報告 児 玉 章 良

平」を通り「尾平トンネル」へ。

なあと感心した。 思っていたら、「緒方町~「高 町」~「日之影町」から登ると 飯田さんは道を良く知っている 千穂町」経由で登るとのこと。 ていたので、てっきり「宇目 「清川」~「上畑」~「尾

ようである。 のは宇目と日之影町境の「杉ガ りやすい。ただし名前の由来と があり、ここから目の前、左に 北側になるため路面には一〇セ 越(大明神越)」からが最高の 峰」だけである。双子に見える 見えるのは三角点のある「北 なっている双子峰には見えない。 頂近くまで登っているので分か ンチほどの積雪が残っていた。 った。尾平トンネルの手前も、 子などの岩峰、稜線は真っ白だ から天狗、祖母、大障子、前障 「二ツ岳」が見える。林道が山 二十一日に降った雪で、障子岳 トンネルを抜けると右に広場

はない。 は良く整備されており迷うこと 途中で車を停めて登山開始。午 前八時五分出発である。登山道 「富野尾」から林道に入り、

道になっているであろう。 ば立派なアスファルト舗装の林 林峠を経由して上がってきてい 造成中の林道に出る。残念、こ 覆うようになり、約一時間半で るようである。あと一年もすれ の林道は日之影町の煤市から小 稜線が近くなると残雪が道を

みやざき百山」を事前勉強し

なり、深いところは二〇センチ 立つと、目の前に「五葉岳」 祀られた「二ツ岳八幡本宮」が ぐらいはあったであろうか。 根を進む。途中から残雪が深く ある。林道に沿って崖の上、尾 ある。少し進み東側の岩の上に が、直登だとかなりきつそうで 「お姫山」「大崩山」「日隠 九合目ピークに立つと銅鏡の ここから山頂が目の前に迫る

分で、林道から灼く三〇分であ 進むと分岐で、左へ行くと南峰 のある北峯に到着。一〇時一〇 右は北峰。ほどなく三等三角点 山」などが迫ってくる。さらに

"

梁の山々、北側は「障子岳」 「古祖母山」「祖母山」「本谷 高千穂方面の「諸塚山」や春 (二ツ岳山頂にて)

ば近そうだけど相当なブッシュ せないが、ともかくビールで乾 南側は眼前の南峰が眺望を塞 宮尾付近で「野カンゾウ」の芽 す。車に乗り込み帰路へ。途中 理なのでこれも諦める。 を予定していたが、時間的に無 路の途中の宮尾から登るルート じくパス。「乙野山」へは、帰 で、時間もかかりそうなので同 山」が北側に見え、稜線を行け 次の目標に予定していた「乙野 にないので今回はパス。今日の 木々に覆われて、眺望は望め双 はここから見る限りでは山頂は 杯をし、昼食。記念撮影。南峰 でいる。山頂は積雪で腰をおろ 山「傾山」などが絶景である。 結局来た道をひたすら引き返

が、この時期に雪山に登れたの こで解散。少し物足りなかった 広場で本格的な昼食をとり、こ を摘み、尾平越トンネルの南側

参加者=安部、飯田、 佐藤、遠江、 西 、牧野 石川、 児

〇八九旦)三角点なし 四月月例山行報告

74 孝 子

九州百名山に血道をあげて

い

白鳥山、六観音をまわり高千穂 時三〇分発、一二時三〇分下山。 せて北進。 河原へ。一二時に韓国岳組を乗 北進しえびの高原へ。一三日は る同行者と四月一二日午前二時 三〇分に出発。開聞岳登山口九

姿を見たことのない山へ、心は る。地名のないのもめずらしい おどる。 尾八重神社横の忠魂碑に新し 尾八重川入り口に一五番とあ

いが昭和四年からの戦死者多し。 草の座布団で星を眺め、二日分 い名を入れた石あり。家は少な テントは中学校跡に張り、若

とすのに時間がかかる。 をはくのも、小砂、木の葉を落 くないの一心だ。渡渉を終え靴 事が困難。水中十歩がよたよた 強く、ストックを両方速くつく 靴を脱ぎ暗い中をかなり水流は である。ひざより深し、ぬれた に登山口の案内あり。四時渡渉。3 の行動は久々である。尾八重川 二時半頃朝食、ヘッドランプ

あるが必要なし。 みする場もなく、時々ロープは 足元が不安。このあたりを「高 マキの落ち葉で、上を見たいが 野槇の背」と呼んでいる。一休 つじ、椿の花がちらほら落ちて、 尾根がやせ、岩が出るとコウヤ 歩きやすし。三合目より三葉つ 細いジグザグ道は植林の中で

り開かれた赤土のはだらしきも 四合目になると、前方左に切

ち葉のみ多く、若葉は見えず、 あり。槇の葉は常緑と聞くが落 尾八重部落がよく見える。 のが見える所に出れば一休み場

ない。谷に下れば水音もなく、 これもを右は(谷側)は急で危 中、歩きやすくやがて打越分岐 たころご来光である。自然林の き、祖先へ感謝。 流しの三時間であった。力がわ えるのみ。若緑の多色は筆には 大変だと思う。トラバース道、 つくせない美しさ。初登山で汗 に着く。急登は終わり、帰りは 「ホーホケキョ」の練習が聞こ 尾根の傾斜がやわらかくなっ

ぬれずにすむ。Eは知らぬ顔。 るAさんの所へ、何とかとどき 石はすべる」と手をのばしてい 林の中へ入り「ホッ」とする。 たしかめる。朝食兼昼食は八時 望案内を見、あれこれ山の名を 畑と一キロほどある道を歩く先 よりも見える方が不安で「この ストックを折る思いで進む。植 方の景色どころではなし。手足 じわと先頭で下る。これ以上 プリンとオロナミンC。他の三 天の恵みか晴れて視界よし。展 である。地蔵菩薩に無事を祈り、 へ登っていく。草花、だんだん いながら靴をはき、尾八重部落 人は大食。九時発、下山。じわ 「ビスタリ」はないだろう。四 最後の渡渉は、行きの暗い中 十分ほどの急登で地蔵岳山頂 もう二度と来ないだろうと思

> ほほえむ。六九〇メートルの高 ち帰る。振りあおげば地蔵岳が まむし草多く、根をつけて持

宮崎百山の中でもきびしいのだ り、「もう登りたくない」と。 宮崎支部長夫人より電話があ

同行の有志に感謝。 旅。フリータイムと車と運転者 大分帰着。九州縦断の三日間の 一二時帰途につく、午後六時

参加者= 安部、石川、



隈山 系 星 貞 夫

高

メンバー: 星子、池辺、 期日:十一月三、四日 坂本、

懸かるコンクリートの橋の上に 車でも十分通れる。スマン峠の 白水林道は以外に良い道で乗用 雨が止み、星が姿をあらわした。 完了し夕食が終わる頃、やっと ン峠入り口のテント場で設営を 水は不自由しない。その谷川に 入り口のすぐ横に谷川が流れ、 三日の日は朝から雨で、スマ

Aはじっと待っている。

が国ばい、と言っている。 している。桜島は大きく、おら の中から志布志湾が浮き上がり、 山頂の眺めはすばらしい。朝霧 ガラ岳の稜線で太陽が顔をだす。 を頼りに、峠をめざす。オオノ テントをはる。 川霧が蛇行して今日の晴天を約 トを撤収し四時三〇分にライト 四日午前三時に起床してテン

島湾、桜島、韓国岳、霧島山、 と縦走して、白水林道へ下り、 開花時はさぞ綺麗だろうと思う。 島県全地図を広げてうなずく。 に浮かんでいる。開聞岳、鹿児 で遠く屋久島の宮之浦岳が雲上 ヘッドにもどる。 林道を1時間歩いて、トレール から妻岳、双子岳、平岳、横岳 カクマホトトギスの群生が続き 村上さん持参の五万分の一鹿児 志布志湾、鹿屋市、垂水市など、 森林の連続で日がささない。タ 御岳からの眺めはさらに抜群 オオノガラ岳を往復し、御岳 登山道は急登、急坂であるが

感謝する。 一月四日 往復とも村上氏の運転に頼り

二:五五同発~一三:〇五林道登 五~平岳~一二:四〇横岳着~一 岳~一一:一四二子岳~一二:〇 :二二妻岳分岐点~一〇:三九妻 五御岳着~一〇:〇〇同発~一〇 峠~九:〇三妻岳分岐点~九:二 ~七:四〇同発~八:一二スマン 五六スマン峠~七:〇三大ノ柄岳 四:三〇スマン峠登山口発~五:

口~一五:一五スマン峠登山口着山口分岐点~一四:一一林道登山 (時間記録は村上氏による)

Ш 練習登 山

安 部 可 人

習登山に、一七日、石川氏の同 行を得た。 七歳の体力を試す、三回目の練 の黒岳、祖母山登山の為、六十 (二月)の月例山

で行こうと内山渓谷第二秘湯 よいという毎日で、行ける所ま た。 (九:二〇) (へびん湯) 近くから登り始め 朝は腰痛、動き出すとあとは 三〇分で稜線の大平山と内山

キ板あり。赤テープの目印も不 りと合っている。ここから少し 川氏の六万円の高度計はぴった 引き返した地点。標石あり。 急登、一八〇mを四十五分で第 谷の見えるコルから一番きつい 道で充電でき、。休息不要。 の高度差、四〇分。再び平坦な 要の尾根あるき。三〇m下り、 いない。二豊山岳会の古いブリ ヤブ気味だが思ったほど荒れて への分岐点着。一〇分ほどで境 コルから第二峰(一〇八〇m) 一峰の九六三m点着。 へゆるやかな登りは約一五〇m 去る四日、独りで来て積雪で 石

はずだが、腐ってしまったのか この辺に遭難碑の柱があった

かない。ヴェクターと地図が気 か。そこで昼食。(一二:一 根もあり、積雪期は少しキケン を通過。五〇センチ幅のやせ尾 力を与えてくれる。初めて岩場 ない。もう引き返すわけにはい りは二〇分、そんなにきつくは 見あたらない。別件のたしか? 頂上着。(一三:一〇) 五)もう内山は目前。三〇分で 署員二名はどうなったかと思う。 行方不明のままの津久見の消防 第三峰(一一五〇m)への登 (駐車

地点から三時間五〇分) 〇m地点へ。左がきれ落ちてい で来て引き返した地点、一〇三 急降下、二〇分。最後は二度と m峰からロープのあるドロ坂の って三〇分散歩の後、一一六〇 るが積雪のない今日は全く恐怖 来たくないところ。 別府湾はもう春霞。北へ向か 一日、塚原越から家内と四人

年ぶりのウサギ落としへ落ちて 答なし。仕方なくこれまた三十 払ってくれと手を合わせるが返 来たくない感じ。 の難路で膝が痛み始め、 いった。最後の高度差一五〇m 川氏に駐車地点までタクシー代 感がない。 塚原越着(一四:三五)。 二度と

げ!」と騙されてやっと鍋山 分かかった。道路から恵比須神 「女学生が集団で入浴中、 (なべやまん湯) に到着。六〇 急

をして一六時、駐車地点到着。 社へ向かって防火帯を下り近道 (頂上から三時間)

登れ、少し自信がついた。私の 二回していたので割と調子よく くれて嬉しい。 コースは初めてと、気に入って 日本百名山を始める彼でもこの 体力B級のAとは石川氏の評価。 大分百山、九州百山完了。今秋 春の好天は楽しかった。下見を 露天風呂入浴。カンパイ。早



私の無名山ガイドブックの 城山シリーズ(六)

古城山(宝弄m) 飯 田 之

り口である。右が石垣、 鹿鳴越東峠に登る古い峠道の入 集落に向かうと、集落の少し手 位置づけられていたようである。 ここは、豊前宇佐方面に対する 幸宛大友親治書状に「鹿鳴城衆 前に小さな四辻がある。ここが をくぐって右に尾久保の最奥の 年来辛労之段悦喜申候」とある。 明年間と伝えられるが、田北親 いう別名が付けられている。文 山と区別するために、古城山と 山の下の稜線上にある台地の城 大友氏の重要な戦略拠点として 空港道路につながる自動車道 城山となっているが、百合野 ながら峠を目指す。所々に石垣

なり傾斜も増してくる。 道から数分で左側が竹ヤブから うちは竹ヤブの中で薄暗く、ほ 見えてくると、右に入る幅の広 出て、明るい草つきの細い道と 斜がついてくると細くなり、そ たと言われるこの道は、始めの 初年頃までは人力車も通ってい が一本道で峠まで続くのである。 方に大きなコンクリート擁壁が ぼ平らで路面も良いが、少し傾 装の道を進むこと三、四分。前 ヤブの中の細いコンクリート舗 網フェンスの間の、マダケの竹 して荒れてくる。そして分かれ い山道が分かれている。この道 『殿様道路』とも呼ばれ、明治

見え始める。四辻から約三〇分 りの道となり、『駕篭立て場 々に覆われた道になり、傾斜も の札が下がっている所を通過し、 り場への入り口を示す小さな木 やがて両側が天然林となり、 っているが、草を刈る前の真夏 手上の方に、木々の中にゴツゴ 跡』と書かれた小さな木の札が も登ると草つき道から大きな木 と、振り返る後方には別府湾が アルミの梯子を重ねた橋を渡る 手で草を刈られて歩きやすくな 下がっている所を通り、前方右 一段ときつくなる。ジグザグ登 『桃の木』と呼ばれる昔の石切 にはかなり草が深い時もある。 この道は毎年地元の人たちの

る。スギの造林地内を緩やかに 続く鹿鳴越の現在の縦走路であ かれている。これが経塚山まで らな道を進むと左に入る道が分 分ほど山香方面に向かって、平 からない。峠からさらに四、五 があったが、今は荒れ果てて分 からすぐに左に踏み込む縦走路 新しい立て札がある。以前は峠 印と百合野山への分岐を示す真 と山香方面と長野方面を示す矢 ている。一〇メートルほど行く 道は平らでずっと向こうに続い 薄暗い峠に着く。ここが鹿鳴越 分で鬱蒼とした木々に覆われた いくと、四辻からおおよそ五〇 を思わせる道をどんどん登って (東)の峠である。登り着くと

道がつけられている。これを直 ず進むと、急な斜面を直登する 小谷状を踏み越えて一〇分足ら トラバースしながら、二度ほど ことになる。ほぼ水平に山腹を や踏み後を丁寧にたどって行く けもの道程度で、目印のテープ 走路とは違い、ほとんど小さな ら山腹をトラバースするように が、登る道は少し手前の分岐か の小鞍部からの稜線続きとなる し日出側にせり出しており、こ つけられている。といっても縦 城山は鹿鳴越の主稜線から少

の残る、

いかにも古い峠道の跡

ツした岩の見える壁のを見上げ

みながら上を目指した方が登り 滑りやすいので、適当に回り込 登しても良いが、雨の後などは

円形で、いかにも昔の砦の跡ら 頂上部分は南北に僅かに長い楕 頂は小さく二段になっていて、 ほどなく山頂に到着するが、

百山(改訂版)」七ツ石山の頁 るともっと趣がある。(「大分 四辻に引き返す一周コースをと 鹿鳴越西の峠から山田に下り、 経塚山にも足を伸ばし、下りは も面白いし、もっと欲を出せば、 七ツ石山へ足を伸ばして見るの くなら、思い切って板川山から 石山などが覗けるところがある。 ここまで来たのだからせっか

登って行く道は、次第に傾斜を

増してきて、殿様道路から一〇

(城山シリーズ終了)

けてずっと道が続いている。 部で、造林地の中を板川山に向 標識を見る。その少し先は小鞍 分ほどで古城山への分岐を示す

地図 二万五千分の一杵築

0→篭立て場跡→0:10→桃の木入 0↑鹿鳴越東峠→0:15→縦走路よ り口→0:15→尾久保の四辻 の分岐↑0:15↑鹿鳴越東峠↑0:1 山↑0:15↑縦走路より古城山へ り古城山への分岐↑0:15↑古城 り口→0:15→駕篭立て場跡→0:2 尾久保の四辻→0:15→桃の木入

しいたたずまいである。 分岐点から一五分足らずで、

枝の間から、別府市街地や七ツ いて全く展望がないが、僅かに 山頂一帯はヒノキに覆われて

参考タイム

支部定例総会報告

育成登山など

四支部集会や国際登山年記念の 交流、そして支部員みんなで協 り組みを実施してきたが、二〇 青少年育成登山など幾つかの取 支部長が「二〇〇二年度は九州 ランドホテルで開催されました。 より、九重町長者原の九重ハイ で議論し、決定したことについ 力して行う事業など、この総会 去る四月一九日 (土) 午後五時 行されました。 い」挨拶し、続いて議長に甲斐 てみんなで取り組んでいきた 〇三年度も、山を通じて親睦や に委任状出席七三名)で、梅木 郎支部員を選出して議事が進 総会には出席者二十三名(別 二〇〇三年度支部定例総会が

年力間で募金協力してもらうこ のため会員一人九〇〇〇円を三 年の記念行事のため、四五〇〇 告があり、一括承認されました。 の事業報告・決算報告・監査報 ったことが報告されました。こ 万円の会員募金を募ることとな して、日本山岳会創立一〇〇周 ・予算案の提案があり、 その後二〇〇三年度の事業計画 括承認されました。 総会では本部役員会の決定と 議事ははじめに二〇〇二年

り組むことも承認されました。 われる場合は、東九州支部で取 州ブロックでの記念事業等が行 年記念が同じ年となるため、九 すい時期を設定し、早めに計画 年は最も中高校生等が参加しや とし、昨年度の反省として、今 山」を、今年度も実施すること して実施した「青少年体験登 協力が求められました。 り、この販売に関する支部員の あと約一九〇〇部売れ残ってお た、「大分百山」(改訂版)が とがすることとなりました。 昨年の国際山岳年記念事業と 支部四五周年記念と本部百周

会科

安西飯佐阿安

田藤

査 局

あずさ

之

少

報学年外

に甲斐支部員が選出されました。 報などの業務を兼務していた飯 となり、監査はこれまで支部会 支部長は梅木秀徳支部員が留任 他の役員は規約により支部長が 員は次の通りとなりました。 田支部員が役員にまわり、後任 任命することとなっています。 では支部長と監査のみ選出し、 この結果二〇〇三年度支部役 続いて役員選出ですが、総会

梅木支部長留任

し募集することとなりました。

五月月例 お 知 5 山行の せ

御連絡

月 ·目的地 出 発 日 午前五時〇〇分サニ 鳴子岳 (1578m) 五月二五日(日) (九重山群)

行 クを幾つか歩きます 天候により付近のピ

六月月例山行の

·目的地 月 日 市房山1275.3m) 六月二三日 (日)

副支部長

宇梅津宮木

史

秀

(高山病対策) 浩

幸

一部 長

出 発 時サニー発 二〇日(金)午後七 (宮崎県)

京都支部から依頼の山本一夫

でお供えのように乗せられた。 花。それは青い葉の上にまる に、ぽっかり一輪咲いている 広げた丸い葉に守られるよう

京村真司氏支援署名の葉書の

お願いします。

たっては、支部員のご協力を

「青少年体験登山」の実施あ

七月下旬~八月に実施予定の

②傷害保険の加入や、健康保

健証の持参に心がけること。

①出発前に日程・目的地等を

事務局にお知らせ下さい。

について

事務局長

西

(遭難対策)

行 程 二一日 (土) は馬口

投函に協力して下さい。

山 自会 然保 行護

野甲加

芳 良

雄治彦

(医療)

Ξ

目的地 月 日 妻子ガ鼻(1089m) 七月二七日 (日)

郎

長谷峠や高森峠など 時間が有る限り南外 午前五時サニー出発 (阿蘇外輪山)

(文貴

飯田

出

七月月例山行の

輪山を歩きます

山を目指します

テント、シュラフ、 江代岳を登り、

当日は槇口から市房 食糧三食分と非常食

そして、そのなかに一段と白 にぎわしているのが、照葉樹 周りの緑に飲み込まれてしま 信じられないほど、すっかり ふれていたサクラ色の斑点が ほどあちこちの山々に満ちあ 花が終わった今は、もうあれ 誇示していたヤマザクラは、 いました。 代わりに今、山々を一段と 一年に一度だけその存在を

O アケボノツツジ、ミツバッ 林で、シロモジやアブラチャ ジ、ヒカゲツツジ、ドウダン く鮮やかに盛り上がっている れ日が差し込むとき、大きく ンがいじらしいほど精いっぱ 誇り、その存在を誇っている あふれる派手な色や形で咲き ツツジ科木々がそれぞれ個性 ツツジ、アセビ、ネジキと、 ツジ、シャクナゲ、ヤマツツ のは椎の花でしょうか。 の木々の萌える彩りでしょう。 ている五葉岳稜線でした。 い、自分の存在を示そうとし 樹林の中のに淡い朝の木漏

シカのあしあとが残っていま 花は、緑濃い葉々々の中に一 シャクヤクの花です。 面には、幾つものイノシシや の姿そのままで落ちている地 は落ちていくのです。その花 輪づつが静かに清楚に咲いて す。でもこの控えめで質素な 照葉樹林の春は、山中が椿で 潮風の匂いのする蒲江町の

K

1 日本山岳会東九州支部報 2

個人の長期または遠隔地山行

ず連絡して下さい。

月例山行参加者は事務局に必

本年は支部山行を会報でお知

3年 (平成15年) 4月25日(金)

200 発行者 編集者 徳 秀勝 梅 木 飯 田 勝 〒870-0021 飯 之 発行所

市府内町1-3-16 サニースポーツ内 西 孝子方 TEL·FAX 097-532-0926 :藤正八 大分市府内町1

真っ白で柔らかくて、まるで つきたてのお餅のようなヤマ